

渋川市議会会派 「きぼう」・「政策調査会」及び議長行政視察 研修報告書

平成30年11月 15日

きぼう代表 望月 昭治
政策調査会代表 中沢 広行
議長 茂木 弘伸

1、視察日程 平成30年11月7日(水)～9日(金)

2、視察場所 沖縄県石垣市・沖縄県宮古市

3、視察議員 議長 茂木 弘伸
会派きぼう 望月 昭治・石倉 一夫・安カ川 信之・星野 安久
会派政策調査会 中沢 広行・細谷 浩・山内 崇仁・池田 祐輔

4、視察概要 ☆石垣市の移住・定住支援計画に基づく人口減少対策について

婚活事業・地域おこし・公営塾の開設

☆エコアイランド宮古島の取り組みについて

特産さとうきびの残渣利用によるエタノール精製

天然ガス利用・太陽光発電・電気自動車の普及促進等

○石垣市での視察は、渋川市が人口減少対策に取り組む中で、移住・定住対策を積極的に先進的に実施している沖縄県石垣市を視察先として選定、移住・定住支援計画による事業の取り組みについて研修いたしました。

○宮古市におけるエコ事業は、地下水の保全に端を発し、国営事業として再生 エタノールの精製をはじめ地下ダムによる農業用水利用、電気自動車の普及促進など様々な事業を通し、島全体のエコへの取り組みを研修いたしました。

5、視察報告

説明者 石垣市移住定住係 小池氏

① 石垣市の概要

石垣市は、日本の最南西端に位置し、八重山諸島の主島・石垣島と尖閣諸島ど13の無人島からなり、面積は、229.15km²ある。

沖縄最高峰の於茂登岳を中心に南に平野、湾岸・半島・岬・海浜など様々な自然を織りなしている。

市制施行は昭和22年7月10日で、人口は、49,380人 世帯数24,027世帯からなり、主な産業は、農業(果樹)・水産業・畜産業・観光である。特産品としては、石垣牛・パイナップル・マンゴー・かまぼこなどがある。

②石垣市移住・定住支援計画について

この計画は、平成29年～平成33年の5年間計画で、いずれ来る人口減少を抑制し、地域の活性を図りながら地域社会、経済の活性化実現のため策定されたものです。今現在の石垣市では、年間600人の出生による自然増に対し、400人の死亡減で200人増、転出入では、転出が増加傾向にあります。

市の人口ビジョンとして希望出生率2.47%の実現、社会増減ゼロ以上の維持が掲げられています。人口自然増への対策として子育ての支援・若い世代の出会いの場創設として婚活事業、人口社会減の対策として、子育て支援を担う人材育成・移住定住CCRCの導入が施策となっています。新たな取り組みとして移住相談会の開催が東京・大阪などの都市で年数回開催されるほか、移住ガイドブックの作製など情報の発信にあたる取り組みに力を入れています。

また、受け入れ体制の問題点として、住環境の整備が整っていない面が伺えます。アパートの不足、空家が少ない。そして、労働収入の低さが問題となっています。



☆本人が移住者であり、市の職員として移住者の立場から説明してくれました。

③婚活事業について

今現在人口増傾向にありますが、2025年位から人口が減少することが予想されています。そうした中での取り組みとして婚活事業が民間委託で開催されています。400万の予算で、年間5回程度、パーティー形式で行なわれ5～7組のカップルが成立、その後の追跡はされていないので、結婚に至ったかは分かりません。

④公営塾の開設

石垣市では、島に大学、専門学校が無いいため、本土をはじめ大阪・九州・東京といった中央の学校に行くことになります。その学力補助として、公営塾を開設しています。この塾は、逗子市の元市長長島一由氏が講師として学力指導にあたっていますが、推薦入学になるような方針に基づいています。特にAO推薦に力をいれているようです。大学への進学率は、32%でこの塾の定数は、30名、定数を超えた場合、選抜になります。

塾のやり方の重点は、毎日行なうヒヤリングで、それぞれその子ども達にあった指導を行なっているということです。



☆石垣市役所庁舎の前で公営塾講師(元逗子市長)長島氏と

バックのこの庁舎は、2年後には別の場所に新しく生まれ変わります。

石垣市のシンボル

市の花 サキシマツツジ 市の鳥 カンムリワシ 市の魚 タマン
市の木 ヤエヤマコクタン

石垣までの距離

東京から 1,952km 大阪から 1,588km 那覇から 411km

説明者 宮古島市企画政策部

エコアイランド推進課長

⑤宮古島の概要

宮古島は、東京から2,000km、本土那覇から区300kmで台湾の中間点に位置する島で、人口5,500人、面積205Km²平均気温23.3℃の亜熱帯性気候のところ。主な産業は、農林水産業と観光業で、基幹作物は、さとうきび・葉たばこ・マンゴー・ゴーヤ・かぼちゃなどの栽培が盛んで、さとうきび・葉たばこは全国屈指の生産高を占めています。水産業については、鰹・鮪に加え、車海老・海ぶどう・もずくの養殖が盛んに行なわれています。そのほか、泡盛・製塩・伝統工芸品の宮古上布が有名です。観光面では、青い海と珊瑚礁が観光客を虜にしています。



⑥ エコアイランド宮古島の取り組みについて

宮古島では、地下水の保全に端を発し、再生可能な資源の有効活用を図る見地からエコ政策に取り組みました。

☆さとうきびによる自給自足のエネルギー供給として、さとうきびの残渣を再利用し、宮古島バイオエタール事業を国の事業として予算22億を投資し、平成29年度まで実施しました。

☆天然ガス利活用推進事業として県が天然ガス試掘調査によるボーリングを行ないその存在が確認されました。その結果この天然ガスを利用し、農業振興・観光振興を図る計画中です。

☆クリーンエネルギーによるCO2フリー化では、太陽光発電4MW、蓄電池4MWを設置し、再生可能エネルギーによる変動に対する安定化の実証を図っています。

☆電気自動車の普及促進事業では、運輸部門のCO2排出・高い自動車燃料コスト及び台風災害時における停電の課題を掲げていますが、これらを解消するため電気自動車の活用が有効であると判断し、取り組んでいます。この取り組みによって生活コストの低減、新たなライフスタイル、エコアイランド宮古島のブランド化が期待がもたれます。

